

不妊治療効率向上を目的とした低侵襲子宮着床能判定装置の開発

プロジェクト
責任者

大阪大学大学院医学系研究科 産科学婦人科学

教授 木村 正

プロジェクト概要

生殖補助医療の需要は年々増加傾向にあるが、その治療効率は充分とはいえない。

日本における年間総出生児数に対する
生殖補助医療治療により出生した児の割合 (%)
(1985-2019) 日本産科婦人科学会登録・調査小委員会
国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集」、厚生労働省「人口動態統計」



日本における生殖補助医療
年間治療周期数 (万件/年) (1985-2019) 日本産科婦人科学会登録・調査小委員会



現在の不妊治療の治療効率を向上させるためには、
現在ブラックボックスである受け入れ側の子宮の着床能を月経周期ごとに前方視的に評価し、
その月経周期ごとの治療方針に反映させなければならない。
これまでそのような装置はなかった。

有限なもの(受精卵)を
有効に使う(子宮に移植)のために…
子宮の受け入れ能がよい周期をさがす装置

製品イメージ

申請区分	改良医療機器
クラス分類	クラスII (管理医療機器)



基礎研究において発見した知見をもとに装置を
開発し、動物モデルを用いた非臨床POC、臨床
研究にてヒトでの安全性の確認とPOCを確認
した。

リバランス通知によりPMDA独立行政法人 医
薬品医療機器総合機構の承認取得
(2023年1月)。

対象疾患：不妊症（生殖補助医療治療を受ける女性）
特許情報：WO/2012/070569, PCT/JP2011/076900, 特願2014-067934, PCT/JP2015/001708,
US 15/129 783
技術の特徴：月経周期ごとに低侵襲に子宮の着床能を前方視的に評価する医療機器